



## 『教会はキリストの体、一人一人はその部分』

コリントの信徒への第一の手紙12章27節

日米合同教会は、特にニューヨーク市近郊に住む日本人並びに日本に関心を寄せる人々に、礼拝、交わり、学び、伝道・宣教の業を通してキリストの福音をのべ伝え、キリスト者として共に信仰を深めていくことを目的とする信仰共同体です。

## ◇日曜礼拝説教より◇

■10月16日 テリノ尊子先生「これは誰の肖像」 **マタイ福音書22章15節—22節** クリスマンにとって聖書は人生のマニュアル、信仰の手引きだというような表現がよく使われますが、皆さんはどのようにお考えでしょうか。聖書はクリスマンにとっては神様の御言葉であり、そこに神様の御心が明かされていると信じるのがクリスマンです。聖書は特定の時代に、特定の文化の中で書かれたものですが、そこに示されている神様の人間への思いは、人間の生活様式や習慣のように、時と共に変わるものではありません。聖書が書かれてから何千年もたった今もなお私たちの人生の手引きでありえるのは、その言葉の表面的な意味の奥に、不変の神の真実が息づいているからです。◆イエス様の時代の聖書というのは、ユダヤ教のトラ、つまりモーセの律法5書のことでした。でも、モーセの時代と比べると、イエス様の時代は同じイスラエルの民といえども、彼らがおかれた政治環境や生活様式は変わっていました。その昔書かれた聖書にある掟を、時が過ぎた今の生活に文字通りあてはめようとしても無理なわけです。ですから、新しい境遇においてモーセの律法はどう理解するべきかという質問が出てもつとです。◆今日読んだ箇所もまさにその一場面と言えます。ただ、ここでイエス様に質問をした人たちの目的は、イエス様の言葉尻をとらえて、罠にかけることでした。イエス様は罠を上手にかわすだけでなく、卑しい理由で持ちかけられた質問をも、真実を語る機会に変えています。その質問とは、「皇帝に税金を払うのは律法に適合しているかどうか」というものです。◆ここでいう税金というのはローマ政府がローマ帝国の通貨で払うことをユダヤ人に強制していたものでした。もちろん異国の政府に税金を払うことに不満もあったでしょうが、ユダヤ人にとってもつと問題だったのは、税金に使う銀貨には、皇帝の肖像だけでなく「皇帝チベリウス、神なるアウグストゥスの息子」と書かれて 皇帝の印がついていたのです。モーセの律法で一番最初に来るのが、イスラエルの神以外のものを神としてはいけないというものですから、ローマ皇帝を神とした銀貨を持ち歩くことは問題です。ですから、この質問のポイントは、そんな銀貨を使って税金を払うことは律法に反するのではないかという質問なのです。もしイエス様が問題ないと言えば、律

法を軽んじているとユダヤ人から責められるでしょう。一方で、律法に反すると言えば、ローマ政府に逮捕されるでしょう。これが罠だったのです。◆これに対してイエス様は、イエス／ノーで答えません。「税金におさめるお金を見せなさい」と言われ、「これは誰の肖像か」と聞きます。彼らが「皇帝の肖像です」と答えてから、イエスは「皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい」と言われました。どういうことでしょうか。言い換えると、皇帝の印のついたものが皇帝のものなのであれば、それは皇帝に返し、神のものとは、神の印がついたものであるから、神に返せよということですね。◆神の印のついたものとは、何でしょう。それは他ならぬ私たち人間です。この「誰の肖像か」という肖像という言葉は、創世記第一章にある、「神はご自分にかたどって人を想像された」という部分にある、「かたどる」という言葉と原語が同じなのです。比喩的に言うと、私たち人間は 神の肖像をその身に刻まれているのです。それはまた、私たちたちが洗礼を受けるとき、神から受ける印でもあります。洗礼を受ける時、私たちは神の子として再度確認されるのです。私たちこそ「神に返すべき、神のもの」とは私たち自身のことなのです。◆税金に納めるコインを持っているのは自分です。自分は神の印のついた神のものですから、神の意志を行うことが人生の基本です。ですから、コインをどう使うかは、自分がいかに神のものとして生きるか、その生き様によってきます。マタイ伝22章後のところで、イエス様は最も重要な掟として、「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。第二もこれと同じように重要である。隣人を自分のように愛しなさい」と言われています。それが「神のものである自分を神にかえす」ことになる生き様なのです。◆神のものは神にかえせ。それが、実際にどういう形で人間の生き様として表れてくるのかは、神様の意に沿うように生きようとする我々一人ひとりが、それぞれが与えられた場所と時代の中で考えていかなければなりません。聖書は、こういう時にはこうしろと具体例を書いたマニュアルとは違うのです。神に返る生き様、それは、イエス様の生き様そのものが私たちに示しています。◆ピリピ人への手紙第2章でパウロは、キリストを模範とせよと言った上で、私たちひとりひとりに、「恐れおののきつつ自分の救いを達成するように努めなさい。あなたがたの内に働いて、御心のままに望ませ、行わせておられるのは神であるからです」と書いています。この聖書の言葉を信じて、日々神様のもとに返されるものらしく、イエス様を仰ぎながら生きて行きましょう。

## ◇教会活動報告・スケジュール◇

■秋のゲストスピーカー牧師一覧 11月・12月の日曜礼拝でお話して下さる牧師先生は下記の通り。11月6日：岡田圭先生、11月13日：信徒による話(栗原健兄)、11月20日：テリノ尊子先生、11月27日：岡田圭先生、12月4日：鈴木有郷先生、12月11日：信

# 日米合同教会月報75巻2011年11月号

徒による話(今戸ちづ子姉)、12月18日並びに25日:山本アンドリュウ先生。この予定は変更されることもあります。

■**感謝祭の予定** 11月20日には、感謝祭サンデー礼拝に続いて、毎年恒例の感謝祭ディナーが行われます。ポットラックにしてはとの意見もありましたが、やはり伝統的なターキー料理・パイ等を用意したいとの声が多く、今年も教会員がチームを組んで料理を用意することとなりました。用意する食材の量を確認するため、出席をご希望の方は11月16日までに社交室のサインアップシートに記名されるか、事務所までご連絡下さい。また、ヘルパーも募集中です。◆なお、当日寄せられた寄付は、合同メソジスト教会の救済局を通じて東日本大震災の被災者、干ばつで食糧危機にあるアフリカ(ソマリアなど)の人々のために、また米国改革派教会を通じてハリケーン・アイレーンの被害を受けたNY州内の教会の支援のために用いられます。ご協力下さい。

■**建物修復の工事** 建物修復チームは、まだ完了していない建物修復工事をアルフレッド・ナザリ氏を監督としてセバン社に執り行って頂くことを決定し、10月16日に正式に契約を結びました。工事内容は、教会正面の壁にストック(漆喰)をほどこすこと、消防法に従って地下台所にアンスル・システム(自動消火装置)を設置すること、非常口の標識・灯火を新たに設置すること、教会のCertificate of Operation を市当局から入手することです。契約した費用は5万180ドルです。10月末から工事が始まり、11月末までに全ての作業が終わればと考えております。

■**牧師館の修理** 牧師館の修理に関する会衆集会在10月30日にJAUCで開催され、27名の教会員が出席しました。必要とされる工事は、車庫前の車道が水はけが悪く、牧師館の地下に水がしみ込んでいるいるため、地下室に防水加工を施した上、車道を修理することです。検討の末、会衆はこの工事のために2万ドルの予算を承認することを決定しました。

■**スチュワードシップ月間** JAUCでは毎年11月を「スチュワードシップ月間」とし、神様から頂いている沢山の恵みに感謝し、それらを用いてどのように神様に仕えて行くべきか、思いを深める時としています。間もなくPledge Offering Cardも配られます。

■**秋のアルファコース** 「キリスト教は初めて」という方のための入門コース「アルファ」の秋期セッションが9月14日から始まりました。毎週水曜日の午後7時から、11月30日まで合計13セッションが予定されています。トピックは下記の通り:「神のいやしとは?」(11月16日)、「イエスを伝えるとは?」(同30日)。詳細は丸橋ダウンズ理加姉まで。

■**映画上映会のお知らせ** 11月から2月まで毎月1回、JAUCでは無料の映画上映会を開催する予定です。11月12日(土)午後7時より「The Cross and the Switchblade」、12月3日午後4時より「The Muppets Christmas Carol」、1月7日午後7時より「Fireproof」、2月4日午後4時より「The Chronicles of Narnia - Part 1」です。いずれも高い評価を得た名作ばかりです。言語は

英語ですが、日本語のストーリー要約が用意されます。お問い合わせの方々をお誘いの上、是非いらして下さい。

■**2012年度子供キャンプの計画** 今年の夏期「ディスカバリーキャンプ」は成功のうちに終わりましたが、吉松純先生のもと、早くも次年度のキャンプの計画が始動しています。最初のキャンプ準備委員会の会合は11月28日にJAUCで持たれる予定です。これからもどうぞ子供キャンプをご支援下さい。

## ◇愛修会の報告◇

愛修会リトリートが10月8日(土)から9日(日)までワーウィック・リトリートセンターで開催され、今年は17名が参加しました。テーマは「What is to be a Christian?」です。土曜午後のセッションは栗原健兄がリードして下さいました。「『主の祈り』は、私たちの人生そのものが礼拝であり、神様と隣り人を愛して生きるよう招かれていることを教えています。私たちは主を離れては何も出来ない弱い存在ですが、神様に祈り求めることによって豊かに実を結ぶ人生を生きることが出来ます」。セッションの後、引き続いてスモールグループによる話し合いが持たれました。夜にはセンター横の森の中でキャンプファイヤーが行われ、賛美歌を歌って楽しい時を過ごしたほか、夕方から参加して下さいました石井孝之先生が「学生運動などをしていた私がアメリカに導かれ、牧師職に召されるに至ったのは、ただ神様の恵みとしか言いようがない」と、ご自身の人生の歩みについても語って下さいました。感謝です。日曜午前の礼拝では、賛美の後、今戸ちづ子姉がメッセージを述べて下さいました。「礼拝の意味は、パウロが言うように私たち自身を『神に喜ばれる聖なる生きた供え物としてささげる』こと(ローマ書12章)にあります。礼拝は感情ではなく、神への積極的な応答、キリストと似たものとなるよう、自らを差し出すことです。神様を常に私たちの中心に置くことで、私たちの生活も礼拝となります」。日常を離れ、兄弟姉妹たちと共にイエス様に集中するときを持つことが出来たのは嬉しいことでした。

## ◇メンバー関連◇

■**湯沢ジョージ兄の帰天** JAUCで長年理事長として奉仕され、NYの日系コミュニティのリーダーとしても多くの業績を残された湯沢ジョージ兄が10月8日、帰天されました。96歳でした。ロサンゼルス生まれの湯沢兄は、太平洋戦争まで花のビジネスを営んでおられました。戦争勃発によりコロラドの日系人収容所へ収容され、家・財産を失われました。その後米国陸軍に志願され、東京にも滞在、除隊後にニューヨークで再び花のビジネスを再開されました。社会活動家として日系アメリカ人に対する差別に対して抗議され、日系人収容所体験者への補償実現(1988年)のために大きな貢献をなされました。その他、日米間の文化交流や高齢者らの支援のため数々の働きをされたことは、多くの教会

# 日米合同教会月報75巻2011年11月号

員が記憶しているところです。お嬢様のパトリシア姉は新聞紙上でこう語られています。「父は平和の人でした。(彼が経た辛い体験を考えると)父は怒りに満ちた人になっても不思議ではなかったのですが、彼はそのような人ではありませんでした。だから彼は人々に愛されたのです」。湯沢兄の活動的な生き方、誰に対しても気さくな人柄と温かなほほえみは、私たちの心に深く焼きついています。イザベラホームにお住まいの奥様きみ姉のためにお祈り下さい。◆湯沢兄のメモリアル・サービス (Celebration of Life)は11月27日の日曜礼拝の中で持たれます。岡田圭先生が司式して下さる予定です。同27日の午後2時半から日系人会 (JAA)でも同兄をしのぶ集いが開かれますが、事前予約が必要です。翌28日午後2時からイザベラホームでも集いが予定されています。ご家族への寄付については、Fidelity Charitable Gift Fundに設置されたGeorge Yuzawa Legacy Fundへ寄付されることをご家族の方々は望まれています。同ファンド(郵送先:P.O.Box 770001, Cincinnati, OH45277-0053)宛に、メモ欄にGeorge Yuzawa Legacy Fund並びに口座番号「1041019」を明記してお寄せ下さい。

■野間美奈子姉の帰天 婦人会の会員であった野間美奈子姉(94歳)も9月13日、帰天されました。お祈りに覚えて下さい。

■ご家族の帰天 鈴木エリザベス姉のお母様ウェイバークーン姉が10月15日、オハイオ州で安らかに主のみもとに帰られました。90歳でした。鈴木先生ご夫妻、ご家族の上に神様の豊かな慰めがありますように。また、10月2日には岡田圭先生のお父様岡田利彦兄、同15日には木戸ブライアン先生のお母様クリア・チェース姉も帰天されました。どうぞお祈りに覚えて下さい。婦人会から上記ご家族へsympathy cardをお送りしました。

■結婚式 横関晶姉が10月29日、岡田圭先生の司式のもと、婚約者のGeorge Bumeder氏とJAUCで結婚式を挙げられました。おめでとうございます。幸せ一杯のお二人の写真が社交室の掲示板に貼ってあります。神様の祝福と導きが豊かにありますように。なお、新婚旅行はアルーバへ行かれたとのこと。

## ◇地域教会ネットワーク◇

■テリノ先生の按手礼 SMJ(Special Ministry to Japanese)のディレクターとして働かれているテリノ尊子先生の按手礼が10月23日(日)、マンハッタンのブリック・プレスビテリアン教会で行なわれました。式では相田さんのピアノ伴奏により、JAUCの聖歌隊が「Panis Angelicus」を歌いました。当日は吉松純先生、米国改革派教会のジョン・ノートン先生、日本基督教団の加藤誠先生、また日本からテリノ先生のお母様の鈴木えつ子姉も来られ、先生の牧会者としての門出を祝いました。■JCFN/VIP集会 10月10日のVIP集会では、美術史を深く学ばれた吉松純先生が、17世紀オランダの「光の画家」レンブラントの作品と信仰につい

てお話しして下さいました。「レンブラントは若い頃、劇的で華やかな作品を生み出して富と名声を得ましたが、後年は破産し、スキャンダルに悩み、愛する人々にも死に別れ、一人取り残される人生を歩みました。それにつれて、彼の絵には霊的な成熟が見えるようになって行きます。人生最後の年に彼は『放蕩息子の帰還』を描き、自分自身を、神たる父にひざまずいて許しを乞う放蕩息子として描きます。人生を極めたと思った時から墮落が始まり、最後に神様にたどり着いた、このことを思う時、彼の絵を見る角度が変わって来ます」。NY・NJ地区の日本人信徒が集まって学びや証しの時を持つこの会は、毎月第2月曜午後7時15分からJAUCで開催中です。■SMJの学び SMJ主催の講演シリーズ、ポール並びに泰子グロスジーン博士ご夫妻による「聖書のその後:パート2」がテナフライで持たれています。キリスト教がローマ帝国の宗教となってからルネサンス、宗教改革に至るまでのヨーロッパ文化の流れ、またその歴史が今日の日本人にもつ意味についてお話しして下さいます。第1回は10月29日に行われましたが、第2回が12月3日午前10時から、Presbyterian Church at Tenafly (55 Magnolia Ave, Tenafly, NJ)で行われる予定です。言語は英語ですが、日本語の説明が付きまします。お問合せはJunsuke Motai 兄(junmotai@gmail.com)またはテリノ尊子先生(smjdirector@gmail.com)まで。■オープンハウス 130年にわたりホームレスなど困難にある人々を支援して来たキリスト教団体New York City Rescue Mission (90 Lafayette St. NYC)が、今年も11月13日(日)午後2時-4時に施設のオープンハウスを行ないます。詳細はwww.nycrecrescue.org参照。

## ◇祈りのリクエスト◇

東日本大震災の被災者の方々、並びに次の方々を祈りに覚えて下さい。ロベルト・アセバード(アセバード兄のお父様)、バーバラ・アレキサンダー師、浅井ひさよ、伊藤ゆう子、岩佐敏夫、奥田久子、小口愛(アトランタ・ウェストミンスター教会)、神塚アーサー師・リリー、神崎ヨネ、桑田ハリー、ゴーマン美智子、保坂田鶴子、堀内マーサ、松本二三子、向井ジョージ(ベイサイド在住)、山崎あきら(堀内姉のお兄様)、湯沢キミ諸兄姉

## スモール・グループ

スモールグループは教会員の霊的成長のための教会プログラムです(自由参加)。少人数での交わり(フェロシップ)を通して、クリスチャンとして実生活でどう生きるかなどを考え、互いに支えあい高めあうことを目的とします。時刻は変更されることがありますので、各グループの担当者または月報を確認下さい。

- |                        |          |          |
|------------------------|----------|----------|
| SG 1. 女性信徒の学び会(バイリンガル) | 第2、4土1時  | 園田姉宅     |
| SG 2. 日本人女性の会          | 第2火11時   | 日下部姉宅    |
| SG 3. 男性信徒の学び会(バイリンガル) | 第2、4日9時半 | 教会(日下部兄) |
| SG 4. 日本語での学び会         | 第2日2時    | 教会(春日姉)  |
| SG 5. 日本語「葡萄の木」の会      | 第1日2時    | 教会(小林姉)  |
| SG 6. 日本語「証しと祈りの会」     | 毎月最終金夜7時 | 寒河江兄宅    |
| SG 7. 英語での学びの会         | 毎月第3日曜   | 教会(吉田夫妻) |

# 日米合同教会月報75卷2011年11月号

---

